

令和5年度 一般選抜（前期）

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があった後、最初に問題用紙と解答用紙の確認を行ってください。問題用紙はA4版片面1枚（表紙、白紙は除く）で、解答用紙はA3版片面1枚です。枚数の不足、重複のないことを確認してください。また、印刷が不鮮明な場合は、手を挙げて試験監督員に知らせてください。
3. 受験番号の記入漏れ又は誤記があった場合は失格になります。
4. 解答は、解答用紙に、横書きで記入してください。
5. 下書きは、別紙の下書き用紙を使用してください。
6. 数字2文字以上を続けて記入する場合は、次のように記入してください。

例① 2023年 →

20	23	年
----	----	---

例② 99.9% →

99	.	9	%
----	---	---	---

7. 濁音（が、ぎ、ぐ・・・）、半濁音（ぱ、ぴ、ぷ・・・）は1文字として記入してください。
8. 体調不良やトイレに行きたい場合などは、黙って、手を上げてください。それ以外の途中退室は認めません。
9. 試験監督員の試験終了の合図と同時に解答するのをやめて、着席したまま試験監督員の指示を待ってください。
10. 解答用紙は、未記入のものも含めすべて回収します。なお、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰って構いません。

令和5年度 一般選抜（前期）小論文試験問題

【問】

多様性を認め合う社会について、課題文の内容を要約した上で、あなたの考えを 800 字以内で述べなさい。

【課題文】

「ニューロダイバーシティー」という言葉がある。脳や神経のあり方には、私たちが思っている以上に多様性があり、それは優劣をつけるべきものではない、という考えだ。1990 年代末に自閉スペクトラム症の当事者が使い始めた。最近は、「互いに尊重できる社会をつくっていかう」という社会運動の意味もふくむ。

まだ日本では聞き慣れない言葉だが、先日、経済産業省のホームページにこの言葉があるのを見つけてギョツとした。ひと言でいうと、こう言っている。

発達障害の人の特性はデジタル分野が得意だから、もっと雇用して、イノベーションや生産性の向上につなげましょう、と。

欧米ではマイクロソフトなど IT 企業を中心に積極的に採用する動きが広がり、「エラーの減少」「業務効率の向上」といった成果が出ているという。

私が違和感を持った理由は二つある。一つは発達障害だから IT が得意とは限らないこと。もう一つは生産性向上の文脈で語られることは、向上しなかった場合、バッシングにつながりかねないことだ。

「ニューロダイバーシティの教科書」の著書がある臨床心理士の村中直人さんは、多様性は「インクルージョン（包摂）」に先立ち、「カルティベーション（耕作）」で発想すべきだと話す。

「多数派の輪の中に少数派を入れましょうというのがインクルージョンの考え方です。でもすでに会社や学校には、発達障害の人が存在しています。その人たちが生きやすいように耕していきませんか？という考え方が、カルティベーションです」

つまり、従来の働き方の枠組みに発達障害の人を迎えるのではなく、だれもが働きやすいように働き方の自由度を増し、評価の方法も変える。そういう企業をつくってこそ多様な価値観を持つ人が集まり、イノベーションが生まれるのではないか。

私たちはつい、自分が「ふつう」で、それ以外の考え方や行動をする人を「変」だと思いがちだ。でも実際は、ふつうの人なんて存在しない。環境次第で、その特性は「強み」にもなれば、「障害」にもなる。

【出典】

岡崎明子. 多事奏論 「ふつう」という幻想 多様性は、そこにある. 朝日新聞 2022 年 6 月 22 日朝刊. 13 版. 11 面入学試験当日に使用した問題用紙には記載していない文言となります。